

伝産地・有田からのライフスタイルに即した生活提案型食器の開発

佐藤 彰・藤 靖之・川久保正行

本製品(デザイン)開発における伝統的工芸品指定産地という観点からの考察を目的に、伝統的工芸品産業に関する各種資料等から調査及び検討を行った。併せて加飾デザインの開発と試作を行った。

また、大有田焼振興協同組合の陶磁器デザイン開発研究会平成16年度事業「店舗新企画に対する有田焼の新しい提案」、鳥栖保健所の「生活習慣病の予防・治療のためのトレーニング食器の開発」に対するデザイン開発及び試作等の支援を行った。

1. はじめに

有田焼の売上減少が続くなか、要因として市場環境や生活様式の変化などが指摘されている。さらに、数年後からは人口が減少に転じ、市場規模が縮小していくことが懸念される。このような状況に対し、独自の方向性を持ち、それに基づいた製品開発を行うことが重要になっている。

食器市場は成熟分野であり、消費者からの具体的な要求を得ることは期待できず、供給側が創り提案する製品開発が求められる。また、他者の後追いの手法は、長期的にみて利点ととることができない。しかしながら、これまでこのような製品開発やデザインの考え方に重要な認識を示してこなかった当該産地では、即座にそのような展開を図ることができないのが現状である。

そこで本研究開発では、製品開発の際に必要な各要素について調査等を行い、デザイン開発の方向性を検討する。研究開発初年度である前年度は、市場環境や生活様式の変化を把握することを目的に資料の収集・調査を行った。本年度は、デザイン開発における伝統的工芸品指定産地という観点での方向性の検討を行い、加飾デザインの開発と試作を行った。

2. 伝統的工芸品指定産地

本製品(デザイン)開発における伝統的工芸品指定産地という位置づけの検討に際し、前提となる状況及び動向を把握する必要から、関係資料などの調査及び考察を行った。

2.1 伝統的工芸品指定内容

財団法人伝統的工芸品産業振興協会の資料によると、陶磁器分野での伝統的工芸品指定産地は30地域、そのうち磁器の産地は10地域である。それらを対象に、指定内容である原材料及び個々の技術・技法についての比較を行なったが、伊万里・有田焼としての明確な独自性を確認することはできなかった(表1)。無論、各項目について詳細には個々に差異があろうことは承知するが、概して、歴史様式など無形の要素も大きく、一般的に捉えにくい内容といえる。

2.2 伝統的工芸品産業に対する指針

伝統的工芸品産業審議会は、「21世紀の伝統的工芸品産業施策のあり方について(答申)」(平成12年)として、背景、現状、課題の分析をもとに、伝統的工芸品産業に対する今後の方向性及び施策

表1 伊万里・有田焼指定技術・技法の他産地との比較

(伊万里・有田焼を除く産地)

	技術・技法	陶磁器産地全体	磁器産地全体
成 形	スルス成形	100.0 %	100.0 %
	押し型成形	72.4 %	66.7 %
	手ひねり成形	82.8 %	88.9 %
	袋流し成形	34.5 %	88.9 %
	二重流し成形	27.6 %	77.8 %
	型打成形	13.8 %	33.3 %
模様付け	櫛 目	69.0 %	55.6 %
	イッチン盛り	48.3 %	77.8 %
	面 取 り	37.9 %	44.4 %
	はり付け	72.4 %	88.9 %
	飛びかん	41.4 %	33.3 %
	布 目	34.5 %	55.6 %
	印 花	69.0 %	55.6 %
	化粧掛け	58.6 %	44.4 %
	彫 り	69.0 %	55.6 %
	掻き取り	6.9 %	22.2 %
	盛り上げ	13.8 %	22.2 %
	編み上げ手	6.9 %	22.2 %
	ほたる手	3.4 %	11.1 %
下絵付け	線 描 き	34.5 %	77.8 %
	つけたて	24.1 %	77.8 %
	だ み	27.6 %	77.8 %
	吹 墨	10.3 %	22.2 %
	墨 は じ き	10.3 %	33.3 %
	刷毛引き	6.9 %	22.2 %
(下絵絵具)	呉須絵具	65.5 %	100.0 %
	釉 裏 紅	3.4 %	11.1 %
	錆 絵 具	10.3 %	33.3 %
釉 掛 け	浸し掛け	55.2 %	66.7 %
	流し掛け	69.0 %	88.9 %
	はけ掛け	20.7 %	22.2 %
(釉 薬)	青 磁 釉	27.6 %	66.7 %
	石 灰 釉	17.2 %	44.4 %
	鉄 釉	27.6 %	33.3 %
	柞 灰 釉	10.3 %	33.3 %
	瑠 璃 釉	6.9 %	11.1 %
上絵付け	線 描 き	34.5 %	77.8 %
	だ み	24.1 %	77.8 %
	漆 蒔 き	10.3 %	33.3 %
	刷毛引き	10.3 %	22.2 %
	金 銀 箔	6.9 %	22.2 %
(上絵絵具)	和 絵 具	20.7 %	44.4 %
	金銀彩絵具	24.1 %	55.6 %

(財)伝統的工芸品産業振興協会「伝統的工芸品ハンドブック」より作成

のあり方について提言を行なっている。その内容は、歴史的・文化的価値の保護・保存の意義を十分認めながらも、産業活動としての維持・発展に主眼を置くものであり、需要拡大・市場開拓を最重要課題としている。

そのためには、商品開発、デザイン開発の必要性があげられており、新技術や他分野の技術等の積極的な活用が適当であるとしている。また、伝統技術・技法の部分的な活用など、従来の伝統工芸の捉え方の裾野を広げるという方向性が示されている。尚、他の研究調査資料等においても、同様の指針を示すものがみられる。

2.3 考察

今回、伝統的工芸品の現代及び将来における定義について明確に示した資料を得ることはできなかった。にもかかわらず、市場・需要の獲得と製品生産の本格的打開という課題では共通した認識がみられた。このことが、伝統的工芸品の捉え方についての現状を示唆するものと考えられる。

本製品(デザイン)開発もやはり製造業としての産業活動の維持・発展という観点に立脚するものであり、先述のように、伝統的工芸品について一義的定義を明確には得られなかったこと、また、手業を主体とする伝承技能による工芸製品を尊重する意味からも、ここでは磁器であることと和のイメージという緩やかな整合性、関係性に留めおくものである。

3. デザイン開発

現在の多様化した市場での需要拡大を図るため、産地製品の多様化と多層化を目的として、デ

デザイン開発のひとつの方向性を検討した。

3.1 デザイン開発の方向性

中国をはじめとする低価格商品とのコスト競争は困難であることから、高価格帯商品としての商品力を開発することが重要となる。そのためには、高品位、上質感といった要素が不可欠であり、本デザイン開発では、その具現化をディテールつまり細部の精細さ精緻さによって試行する。また、このようなデザイン開発の目的を得るため、適宜、機器・機械等を活用する。これは、手業を主体とする製品との棲み分け、つまり多様化という方向性にも適うものとする。

本年度は、このような方向性に基づき、加飾デザインの開発を行なった。

3.2 加飾デザイン開発

精緻な表現と精度の必要性、効率的な作業性から、グラフィック作成ソフトウェア及び二次元CADを用いて伝統文様のデザイン図を作製し、そのデータを直接マスク用樹脂シートに加工、サンドブラストによる加飾を試行した。

3.3 加飾デザイン試作

サンドブラスト投射材の粒径や投射回数、文様サイズなど複数の条件による10種類の文様について、テストピースでの試作作業を行った。

使用したマスク用樹脂シートは、素焼等の加工面への貼付・剥離作業が容易なうえ、基本的に曲面への貼付も可能である。また、サンドブラスト加工時間はわずか数秒であり、0.3mmとした加工時点での線幅でもまだ余裕があるほど、充分精細な加工が可能であることから、実用性が高いことが分

かった。

尚、これらのデザイン試作は一例であり、それぞれの機器や技術等の活用による加飾デザインの手法は多岐にわたるものと考えられる。

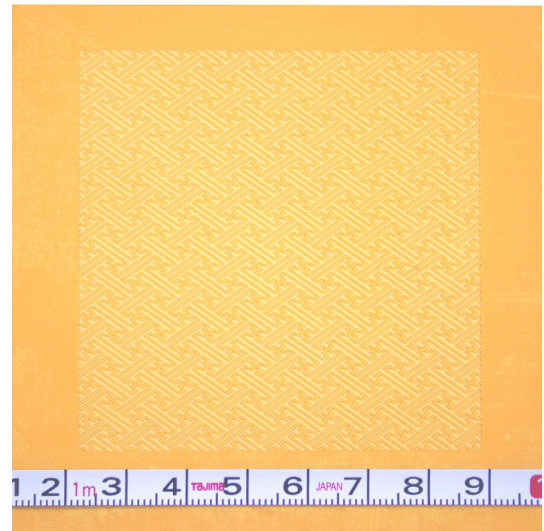


図1 シートを貼付した状態

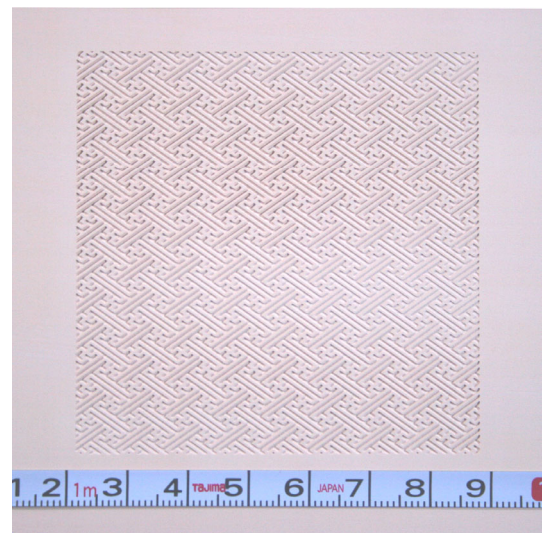


図2 素焼面へ加工した状態

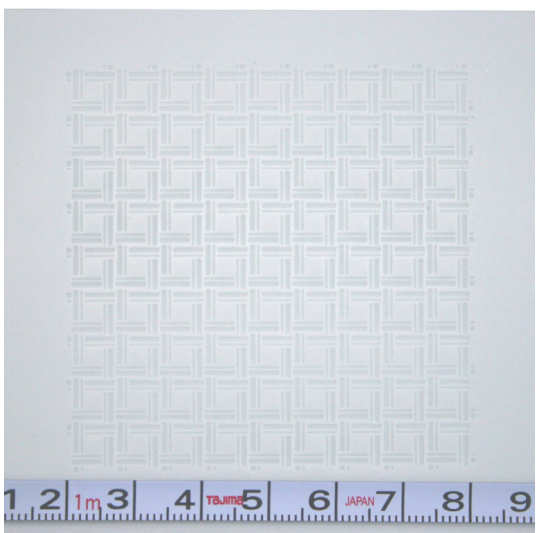
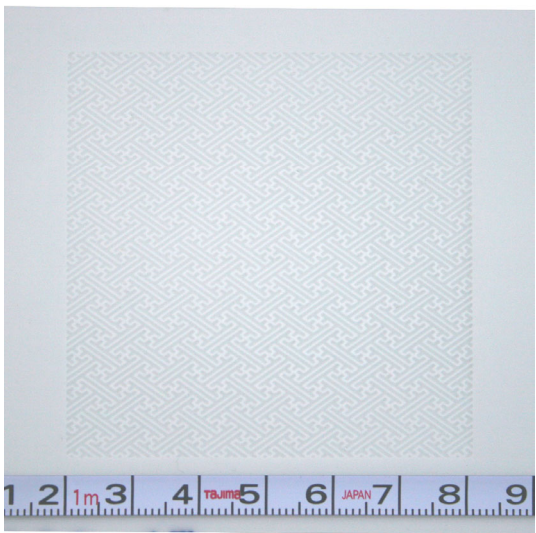
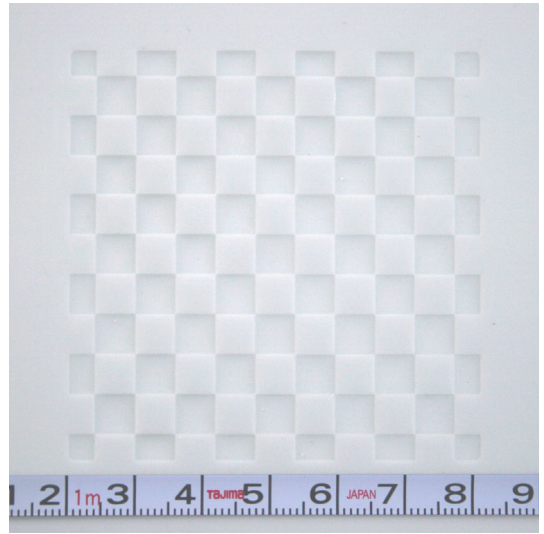
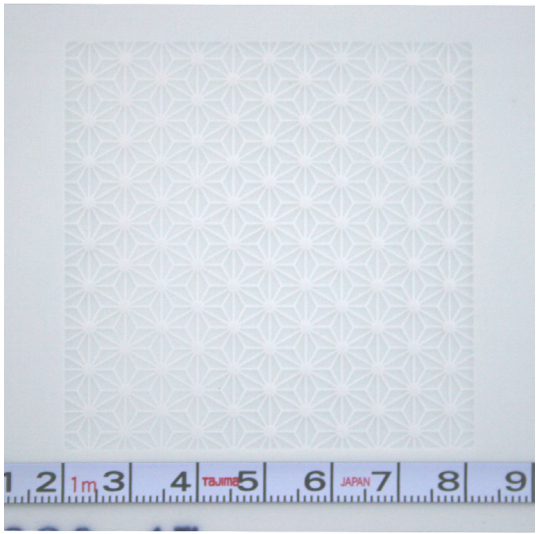


図3 試作した加飾デザインの例

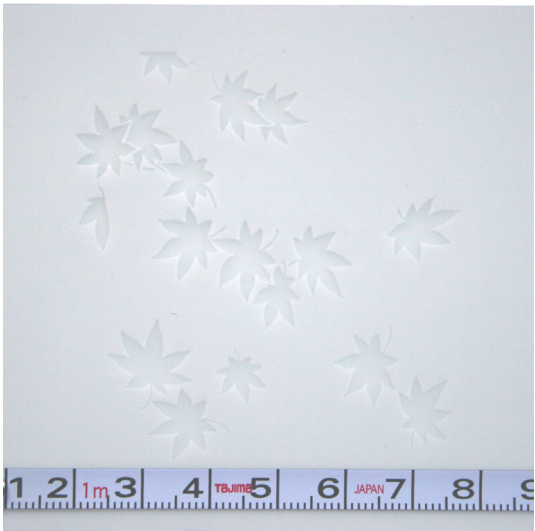
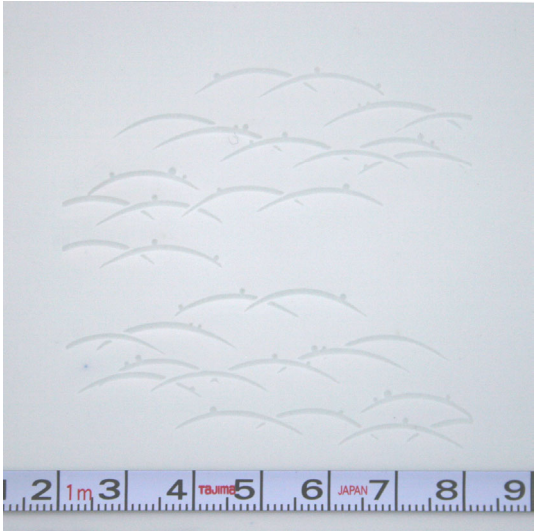


図3 試作した加飾デザインの例

4. おわりに

研究開発初年度である昨年度の市場環境・生活様式についての資料収集・調査に引き続き、本年度は伝統的工芸品指定産地という観点からの検討と、それを受けた加飾デザインの開発及び試作を行なった。

研究開発最終年度である次年度は、これらの内容をさらに検討し、プロトタイプというかたちでの提案を行なう。

参考資料

- 1) 財団法人伝統的工芸品産業振興協会：伝統的工芸品ハンドブック，2003
- 2) 財団法人伝統的工芸品産業振興協会：現代に生きる伝統工芸，ぎょうせい，1998
- 3) 伝統的工芸品産業審議会：21世紀の伝統的工芸品産業施策のあり方について（答申），2000
- 4) 荒木國臣：転換期の地場産業，MBC21名古屋支局・サンレム出版，2001
- 5) 羽田新：焼き物の変化と窯元・作家 伝統工芸の現代化，御茶の水書房，2003
- 6) 中小企業総合事業団：有田焼装飾技術に係る技術・技能（テキスト），2000

■トレーニング食器の開発

(鳥栖保健所と共同開発)

1. 経緯

トレーニング食器(生活習慣病予防食器)の開発にあたり、鳥栖保健所より生活習慣病の患者の食器について相談があった。その中で、現在使われている食器は、一般に市販されている食器を使用しているため、必要カロリーに対して、大きすぎたり、小さすぎたり、また 30 cm角の盆に納まりきれない等多数の問題点がある。そこで、必要カロリーにマッチする食器、また使い勝手がよく、見栄えのよい食器が必要とのこと。今回オリジナルの食器を開発したいとのこと、当センターに依頼があり、共同で開発することとなった。

2. 鳥栖保健所からの提案内容

(1)目的

生活習慣病の中で特に食生活のあり方と関連性の深い循環器疾患や糖尿病の予防、治療に対し、佐賀県の特産物である陶磁器を活用して「食」のアメニティに貢献するとともに、ひいては、地場産業の振興に資するものとする。

(2)全体コンセプト

- ①健康の視点
- ②食のアメニティづくり
- ③計らなくても計れる
- ④産業振興

(3)キーワード

「あなたの健康づくり！佐賀の器が応援します」または「佐賀の器でよかんばい食べよう！」

(4)器の内容

必要条件

- ・1食分が 30 cm角のお盆に納まること
- ・重なりがよいこと
- ・絵柄で盛り付ける素材がわかるようにしたい

基本アイテム

飯 腕	<ul style="list-style-type: none"> ・100gの量が柄で表現されている ・多めにはいっているように見える ・3度の食事で利用するので、手になじみやすい
主菜皿	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がりがあり、径が 16.5 cm程度 ・魚は切り身より丸ごとのほうが食

	<ul style="list-style-type: none"> べるのに時間がかかりゆっくり食べる。また骨があるので大きく見える。よって、尾頭付きの魚用食器も必要
副 菜	<ul style="list-style-type: none"> ・大きめで場所をとらないよう楕円とする ・深めの器も必要 ・野菜を中心とした盛り付け
副々菜	<ul style="list-style-type: none"> ・径が 10.5 cm程度 ・やや立ち上がりがあること
ミルクカップ	<ul style="list-style-type: none"> ・100、200 ccがさり気なく表示されている
豆 皿	<ul style="list-style-type: none"> ・3、5 ccがさり気なく表示されている ・漬け醤油、漬け物皿になる

3. 形 状

①主菜用

・四 角

中心になる皿で、30cm 角の中で、大半の面積を占める。また持ち運びの点で盆のコーナーに納めるといって四角にした。また汁物を入れた場合を想定し、立ち上がりはある程度強いカーブとした。

(170×H35mm 圧力成形)



・楕円皿

一般に使われている焼き皿は、平面で底が浅くなっている。この点を改良し、若干の深みを設けた形にした。

魚と野菜を盛るために、幅の広い形とした。

(240×130×25 圧力成形)



②副菜用

多用途と面積を考慮し、楕円の形の深鉢とした。(130×110×40 圧力成形)



③副々菜用

はし休めや果物を盛る器であるが、りんご1/4、みかん1個が載る大きさを基本とした。

(径108×30 機械ロクロ成形)



④飯碗

径を若干小さめにし、底の面を狭めることによって100gの量でも、たっぷり感を味わえるようにした。(径115×50 機械ロクロ成形)



⑤豆皿

減塩用なので、3、5ccの醤油を入れるラインが入る形を基本とした。

(径80×30 機械ロクロ成形)



⑥ミルクカップ

200cc 取っ手付きで、提案されたが、重なり、また茶碗蒸し等多様に使用したいという要望があり、突き立ちでのコップを提案した。ラインは、100,150cc 上部に2本入れている。

(径80×60 機械ロクロ成形)



4. 加飾

形状については、保健所との話し合いで決定したが、加飾についてはセンターのイメージとして清潔、健康、環境をイメージした。また、無鉛上絵具、撥水コート等を利用した。

上絵

幾何学模様を用いて、快活のイメージを提案した。



無鉛上絵具(転写)

染付け

盛りやすくあきがこない様式を用いた。

撥水コート



ライン(浮き彫り)

計らなくても計れるというコンセプトに対し、ライン(浮き彫り)をもうけることにより対応した。

・飯 碗

100g・のラインをもうける。



・豆皿

3、5 ccラインをもうける。



・ミルクカップ

100、150 ccのラインをもうける。



・配膳例
朝食



昼食



夕食



5. おわりに

最後に今回開発した食器について、平成 16 年 10 月 20 日アバンセで行われた、健康アクション佐賀 21 県民会議で発表し、健康増進課の方ではプレス発表がなされた。その後、佐賀県栄養士会、大有田焼振興協同組合、商社で検討がなされ、サンプルを各施設で使用してもらった。このサンプルについては、安心-安全-環境をキーワードに無鉛上絵具、撥水コートを使用した。絵柄については、健康をイメージした柄で、再検討されており、今後、日本栄養士会佐賀からの発信された食器として商品化されつつある。

佐賀県栄養士会作成パンフレット



■大有田焼振興協同組合 陶磁器デザイン開発研究会へのデザイン開発及び試作支援

1. 事業概要

今年度は、アドバイザーとして、立原 潮氏(料理家)を迎え、イタリアンをテーマに洋食器の開発を行った。開発ワーキンググループ(親和陶磁器(株)、親和伯父山(株)、(有)辻与製陶所、有田製磁(株)、(株)まるぶん、ヤマト陶磁器(株)、(株)松華堂)、当センターで、どのような業態の店でどのような器が使われているかを調査し、フォーマル及びカジュアルな器、また家庭で使える器等から形状の検討を行い、丸、波縁形状のフォーマルタイプ、四角、楕円形状のカジュアルタイプ、を製作した。テーマとして、「有田の新しい色使い」とし、呉須を使わず、色合いや構図、モチーフなど新しいイメージの有田のデザインに挑戦した。これらの作品については、「Selie_A」(有田シリーズ)の統一ブランド名に決定した。東京ドームに出展し、市場調査を行うとともにアドバイザーによる講演等PR活動がなされた。

2. デザイン及び試作支援

フォーマル及びカジュアルタイプで26アイテムの製作を行った。洋皿ということもあり、天草陶土では変形するため、耐火度の高い配合陶土(EX 陶土)を使用した。また釉薬に関して、以前当センターで開発した、メタルマークが付きにくい釉薬を使用した。



フォーマルタイプ



カジュアルタイプ

- ・ 展示会
「テーブルウェアフェスティバル
暮らしを彩る器展 2005」
日時 平成 17 年 2 月 7～14 日
場所 東京ドーム

